

【地域活動】での活用事例 (中学校第1～3学年)

【活用した資料】

- 中学校版「心みつめて」p.162 第三章「ふるさとをもっと好きになろう」

【学習指導要領に示されている道德の内容】

- 4-(8)「地域社会の一員としての自覚をもって郷土を愛し、社会に尽くした先人や高齢者に尊敬と感謝の念を深め、郷土の発展に努める。」

○ 地域ボランティア活動の体験を通して感じたことや考えたことをまとめるために…

中学生も、地域社会の一員として、よりよい地域社会をつくっていくための取組に積極的に参加・参画していくことが求められます。地域の理解・協力も得ながら、まずは生徒たちが地域行事に参加する機会をつくり、地域に貢献していこうとする意欲を育てていくことが大切です。

地域貢献に当たる行事として「地域清掃」「小中合同地域防災訓練」「祭りの準備、運営」などの地域ボランティア活動を実施しています。地域の一員として地域に密着した行事に参加することで、生徒たちは自分たちの暮らす地域＝ふるさとを、それまでとは違う視点から見つめ直したり捉え直したりすることができます。

地域ボランティア活動を経験した後に、「心みつめて」第三章 p.162「ふるさとをもっと好きになろう」を活用しました。10年後、20年後に自分はまだこの地域に住んでいるだろうか、10年後、20年後にどのような地域になってほしいか、といったことについて考えさせながら、「ふるさとのためにできることを考えよう！」の欄に記入をさせたり、家庭で自分たちの地域＝ふるさとのよさについて話し合い、その内容を「我がふるさとを語ろう！」の欄に記入をさせたりしました。

生徒たちが自分たちの暮らす地域を「大切なふるさと」と感じるようになったとともに、保護者からも、「自分たちの町について、親と子がそれぞれの立場で話し合えた。」「大人も、あらためて地域の行事に積極的に参加すべきだと思った。」「自分の子が大人になった時にどんな地域になっているのかは、自分たち親にかかっているのだと実感した。」などの声が寄せられました。

実際の活動と併せて考える場を設定したことで、生徒も地域の大人も一緒に自分たちの町について見つめ直すことができました。